

城下町と観光47 (福島県・相馬中村城)

勇壮な相馬の馬追いの神事 「一氏相伝」の数少ない家系

ジャーナリスト 長宗我部 友親

現在の市の名称の由来となっている「相馬氏」は、その源流を平将門と伝えられる。鎌倉時代は源頼朝の奥州征伐に従軍して、軍功を立てるなど奥州の豪族として名を馳せた。

徳川家康による改易が、一時あったものの、相馬藩は徳川時代に「一氏相伝」をおおむね通した数少ない藩の一つである。

相馬氏の築城による相馬中村城は、福島県相馬市中村にある。阿武隈山地から伸びる小丘陵に築かれた平山城である。城の南側に流れる宇多川を天然の外堀として、この川から引いた水で北面、東面に濠を造っている。

相馬氏は天正十八年(1590年)、^{そうまよしのぶ}相馬義胤が豊臣秀吉の小田原の陣に加わり、陸奥国の宇多・^{なまがた}行方など4万8千石を安堵された。しかし、天下分け目の関ヶ原の戦いの際、参陣しなかったために石田三成側とみなされ、家康によっていったん領地を召上げられた。

だが、伊達正宗の仲介が功を奏して、「義胤が隠居して、その子の利胤が後を継ぐ」ことで、本領安堵となった。その後、明治期まで相馬藩は続く。

利胤は、相馬藩の城下町の整備に乗り出したが、相馬

氏は戦国時代を通して、陸奥の国を長く治めてきたため、家臣は館を構えて、村々に散在していた。したがって、統治がしにくく藩自体の再構築も同時に必要であった。

また、相馬藩は小藩だったが、一千人という家臣を抱えていたために、利胤は藩の財政維持のために家臣に知行を返上させるという大ナタを振った。明暦年間(1655-1658年)には、忠胤が、領内を七郡に分けるなどの整備を行い藩庁の機構なども整備して藩の立て直しを行った。

戦国時代から相馬藩は馬追いなどで知られている。産馬を増やして、相馬藩の産業として育てていった。相馬の馬は、関東全域にも移出された。また、神事としての「相馬の野馬追い」は七百年の伝統を持っている。勇壮な絵巻を繰り広げることで、今日まで伝統を守っている。



北ドイツ事情(2)

元日本航空副社長 横山 善太

北ドイツ事情の話が続きたいと思います。

ヴォルフスブルグ、ドイツ北部の中都市、サッカーファンで有ればドイツ・ブンデスリーグ、最近はその上位チームとして名を為している、1989年迄は西ドイツ側東部の東西ドイツ国境の街です。地域が過疎化にならぬ様、西独政府の税制優遇策により広大な敷地を有するフォルクスワーゲン本社が有ります。年末御挨拶に社をお訪ねした時、近くの分断されたチヘリー村について御紹介を頂きました(この話は3年前程「虚構の国境」として本紙でも掲載頂きました)。この年末の時期、国境沿いに北ドイツ特有の白色光のみのクリスマスツリーが静かに、そして清楚に佇む風景が今回のVW社不祥事件で打ち消される如き遺憾な出来事だったと思うのであります。

この時期のクリスマスツリーは、昔、冬至から日照時間が次第に長くなってゆくの祝う祭で、それ故木の枝に沢山のローソクを灯して祭の飾りにしていた。如何にも北国らしいその伝統を受継いだものであること、そしてもう一つは、元々カトリックの派手な装飾に抵抗するプロテスタントの地域であることでもあるのであります。一方、一般市民で観ると、商業の由来もあるのだと思います。几帳面で真面目なハンザ商人の取引商材は、主として社会生活必需品が多く、ベニスの商人の如く、東方の財貨の横流しとは高道徳に違い有るとの誇りがある様です。商材は、小麦、塩、毛布、羊毛、木材、タール等であります。

観光立国セミナー

会場：海事センター

「ヨーロッパの交通事情と観光」

室谷 正裕

第117回(12月11日)

日本民営鉄道協会 常務理事

氏が参加された、2015年9月実施の東京都市大学名誉総長中村英夫氏を中心とした「ヨーロッパの都市内/都市間交通and駅周辺再開発調査団」の報告をもとに、観光(移動を伴う)と交通との関係、我が国への示唆として歩行者や自転車を含め、空間や景観にも配慮した都市計画、街づくりとの連携を考えた総合的な視点・取り組みの必要性、そして観光地の魅力度を評価する体系的な評価基準の確立などに話が及んだ。

ヨーロッパ視察では、ロンドン、パリ、ベルリンなど都市の地下鉄や郊外電車、ユーロスターやTGV、カールスルーエのH/B LRT、ストラスブールでの超低床LRTなど様々な交通機関を体験、各駅の施設や案内表示を視察された。「交通制度は日本が一番 何も学ぶ事はない」という考えは衰退の始まりであるとの考えを述べられた。

「何故、日本人がノーベル賞を受賞できるか」

松尾 義之

第118回(1月15日)

白日社 編集長、元日経サイエンス副編集長

日本人が毎年ノーベル賞を受賞するのは何故か。日本の科学と技術が超一流だからだ。教育の普及、社会の知的レベルの高さ、経済的繁栄等が大きな要因だが、何よりも日本語という母語(自然言語)で西欧近代文明・科学技術文化を取り込んだからではないか。江戸末期から明治、大正にかけて西欧の新概念を日本語化し、日常語でものを考え、アイデアを創造し、ものを作り上げる、高度な科学文化を花開かせたのである。現代中国語も西欧新概念については日本語と共通の言葉が多い。日本語で文章表現が出来ない人が、英語できちんと科学を表現できるはずがないのである。

トーマス・マンは典型的な北ドイツ人でした(ユダヤ人でありませんが)。プッテンブローグ家では当主は毎日の出来事、その対応等(例えば、子供の病気、治療法等)記録として日記にして居りました。娘がミュンヘンに嫁入りとなり、郷土の違いを嘆いて手紙にして居ます(マン自身、北ドイツ出身でミュンヘン大学就学)。今でもハンブルグの人達は、ミュンヘン人の陽気な明るさを、イタリア人同様の軽はずみと観ているのです。一方、元々イタリア人(ミュンヘン人も同様でしょう)からすれば、暗く無口な北ドイツ人などは話題にすることも無いのです。

ドイツでは夏の2ヶ月程の休暇は北から南へ少しずつずらして取得する様にし、国民休暇利用、交通・道路ネットワーク利用の標準化の為なのでしょう。その為、吾がハンブルグオフィス休暇者の応援はミュンヘンスタッフが補充して呉れる訳です。休暇が終わりハンブルグスタッフは戻ると、ミュンヘン応援者のファインディングが気に入らずやり直す、何とその作業で3日位、要するので応援の意味は半減するのであります。

また別の話ですが、近くのレストランで帰りに一杯やる店が有り、時々昼の残りのソーセージが出る。これは実に旨い(ドイツらしくなく)。夜のメニューにもソーセージを加えて欲しいと申し出たところ、(お客様からの要望ではありませんが)“Nein”(不要)と全く素気無い。理由は子供が食べるものであるとか、間食用であるとか、説得されるほどの理由はない。でも動じない。決めたら変えないのが得意な人達なのです。

次回は更に引き続き、交通ルールに関連したお話を中心にする予定であります。

観光トピックス

北海道新幹線開業に空から祝福!

1月18日、航空自衛隊の「ブルーインパルス」が北海道新幹線開業日3月26日(土)に、函館駅周辺などの上空を展示飛行披露することが発表された。当日の飛行はブルーインパルスにとって、2016年の初展示飛行となるそうだ。

《ブルーインパルス》展示飛行(アクロバット飛行)を披露する航空自衛隊の専門チーム。正式名称は、宮城県松島基地の第4航空団に所属する「第11飛行隊」。

【会員募集】 都市の再生、観光振興、環境保全の市民活動に賛同する会員を募集しています。

●個人会員(1口5千円から) ●団体会員(1口5万円から)

お問い合わせ先 JAPAN NOW 観光情報協会
電話：03-5989-0902 FAX：03-5989-0903

セミナー予告

第119回は2月25日(木)にお招きする講師は

元ザ・リッツ・カールトン日本支社長 高野 登 氏です。演題は「サービスからホスピタリティへ」。変則曜日の為要注意。第120回は3月11日(金)。講師はJR東海相談役 須田 寛 氏。演題は「『駅名』と『列車名』を考える」。いずれも昼12時から麹町日本海事センターにて開催。本年2月から会費は昼食付で、会員1,000円、非会員2,000円に改定させていただきます。■これまでの講演内容は印刷して事務局に保管しています

NEW SPOT in Japan 54

日本一吊橋

歩行者専用の吊り橋で日本一の長さ400mの「箱根西麓(せいろうく)・三島大吊(おおつり)橋(ばし)」が2015年12月14日、静岡県三島市にオープンした。JR三島駅からバスで約25分、箱根・芦ノ湖へ向かう東海道・国道1号沿いに、秀峰富士を望む絶景を観光の目玉にしようと観光娯楽関連の地元民間企業(株)フジコー(本社・三島市)が総工費40億円で建設し管理する。愛称を三島スカイウォークと名付け谷底から高さ70.6mの天空ウォーキングを楽しむ。歩道幅1.6mで車いすがすれ違える。

これまで最長は10年前に開業した大分県九重町(このえまち)の九重「夢」大吊橋で長さ390m。日本一は三島に10m超ったが高さ173mは依然トップで通算来場者は今年1千万人に達する予想だ。次いで長さを誇る吊り橋は竜神大吊橋(茨城県常陸太田市)、もみじ谷大吊橋(栃木県那須塩原市)、水の郷大つり橋(神奈川県蒲川村)、谷(たに)瀬(ぜ)のつり橋(奈良県十津川村)などが続く。車道を含めた長さ世界一は、1991年の明石海峡大橋(神戸淡路鳴門自動車道)だ。

(文・写真 林 莊祐)



三島大吊橋は9~17時年中無休で往復1,000円(中高生500円、小学200円)。生活道路でなく橋を渡る先は行き止まりで引き返す。愛犬を歩かせるのは犬が苦手な客に配慮して制限し、頭が隠れるペットカート(貸し出し500円)に乗せて渡る。ドローンも飛行禁止だ。三島市内は伊豆国一宮として賑わう三嶋大社、珍しい格子状の堀が残る山中城跡公園、街中を流れる美しいせせらぎの源(げん)兵衛(べえ)川など見どころにこと欠かない。足を延ばせば世界遺産の韮山反射炉も。箱根西麓野菜、三島うなぎ、みしまロックなど味のブランドも人気だ。